

教えて!

vol.66

テーマ

# 市立病院

## ピロリ菌と 胃の病気

今月のドクター



診療部第二内科医長

三浦 友来 医師

ピロリ菌は、胃癌、胃潰瘍や十二指腸潰瘍、胃炎などに関連しています。早期胃癌の内視鏡治療後の別の胃癌の発生率は、ピロリ菌を除菌することにより3分の1に減少することが明らかになっています。胃潰瘍や十二指腸潰瘍は除菌により潰瘍の再発が抑制できます。2013年には慢性胃炎もピロリ菌の除菌療法の保険適用になりました。

ピロリ菌の感染経路はヒトからヒトへの経口感染であると推定されます。以前は生活用水に混入した菌による感染が疑われていましたが、衛生環境が良くなった現在では、感染者の唾液を介した感染が考えられています。胃酸の分泌や胃粘膜の免疫能の働きが不十分な幼小児期に感染し、大きな要因として、離乳食が開始される生後4～8か月の保護者による「離乳食を噛んで与える行為」が考えられます。なお、成人では急性胃粘膜障害を起こすことはありませんが、一過性感染で終わる可能性が高いです。

ピロリ菌は一度持続感染が成立すると自然消滅することはまれで、除菌や高度萎縮などの環境変化がない限り感染し続けると考えられています。菌が胃

の粘膜に感染すると、表層に胃炎を起こします。胃炎によって粘膜はだんだん萎縮していき、長い期間炎症が続くと、胃癌が発症すると考えられています。ピロリ菌に感染している場合には、必ず慢性活動性胃炎を起こしており、胃癌をはじめとするピロリ菌関連疾患が併存している可能性があります。

除菌治療は通常は3種類の薬を朝夕2回、7日間服用します。初回の除菌には、胃酸の分泌を抑える胃薬と2種類の抗菌薬を用います。日本では特に胃癌が多いので、胃癌のチェックをした後に除菌治療を行うべきであり内視鏡検査は必須です。除菌が成功した後でも、胃癌が発見されることがあります。除菌成功後にも定期的な内視鏡検査や胃がん検診を継続して実施することは極めて重要です。

<市民公開セミナーを開催します>

■日時/10月13日(土)開場9時30分・開演10時

■場所/すこやかセンター ■参加費/無料 ※申込不要

■問合せ/市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450